公共牧場ＡＩ監視実証業務委託　仕様書

第１条　適用

　本仕様書は、「公共牧場ＡＩ監視実証業務委託」に適用するものとする。

第２条　業務目的

　本業務は、公共牧場において、ＡＩの活用による放牧牛の頭数確認技術を実証することを目的とする。

第３条　計画準備

　現地を確認するとともに、公共牧場の牧区の把握とそれに合わせた業務計画表（様式１）を作成し、提出すること。

第４条　業務内容

放牧牛の頭数確認をＡＩによる画像解析技術により解析し、牛の頭数確認技術を実証するもので、詳細は次のとおりとする。

　(1) 実証場所

　　　岩手県内の公共牧場とし、１牧区１ha以上の放牧地を想定している。

　(2) 使用するＡＩ等

　　　ＡＩについては、実証期間中のライセンスを取得して行うものとする。

(3) ＡＩの学習作業

　　　ＡＩに牛を学習させるものとするが、学習に使用する画像については、外山畜産研究室において撮影した画像を使用するものとし、学習させる画像は300枚以上とする。

　　　なお、学習させる畜種は和牛を主体とすること。

(4) ドローンの空撮準備

　　ドローンは、外山畜産研究室にあるドローンを使用するものとする。

(5) 検証作業

　　　ドローンの画像を基に、ＡＩにより放牧牛の頭数確認を行うこと。

　　　作業は、ドローンで空撮した画像をＡＩが利用できる環境のＰＣに取り込み、ＡＩ画像解析により頭数を確認する。

確認回数は10回とするが、リアルタイムでの検証作業は、１回以上すること。なお、確認回数を増やす場合は、両者協議の上決定するものとする。

(6) 打合せ協議

　　打合せ協議は、着手時・中間時・成果品納品時の計３回とする。

(7) 記録・管理

　　公共牧場内での業務内容の記録・管理を行うもので、要した時間等を作業日報（様式５）に記録し、提出すること。

第５条　成果品

　成果品は、放牧頭数の確認に係る結果を含む実証した成果を報告書として整理すること。

整理にあたっては、ＡＩの画像解析にあたり最適な画像情報などについても整理すること。

ＡＩの学習データについては、電子データ又は紙ベースとし、内容が確認できるものとすること。

上記の他、業務の実績調書として、様式１～様式６に基づき整理すること。

以上を報告書として整理の上、２部提出すること。

第６条　その他

　業務の実施にあたり、疑義が生じた場合は担当者と協議を行うこと。